

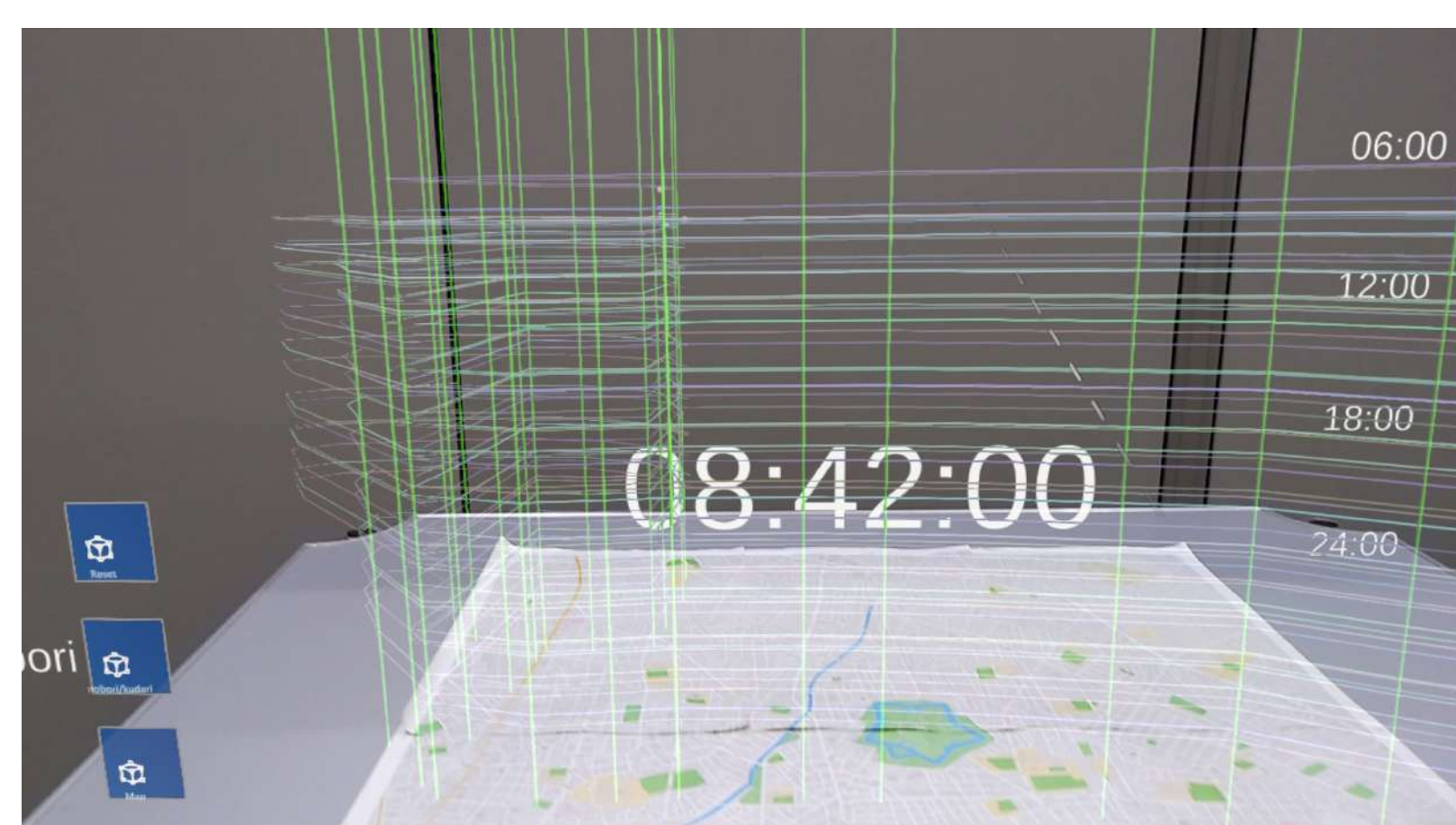
# データにもぐる・ひたる・さわる体験の創出 ：交通、歌詞、市史統計を題材として

公立はこだて未来大学 ヴェイダア・ラボ

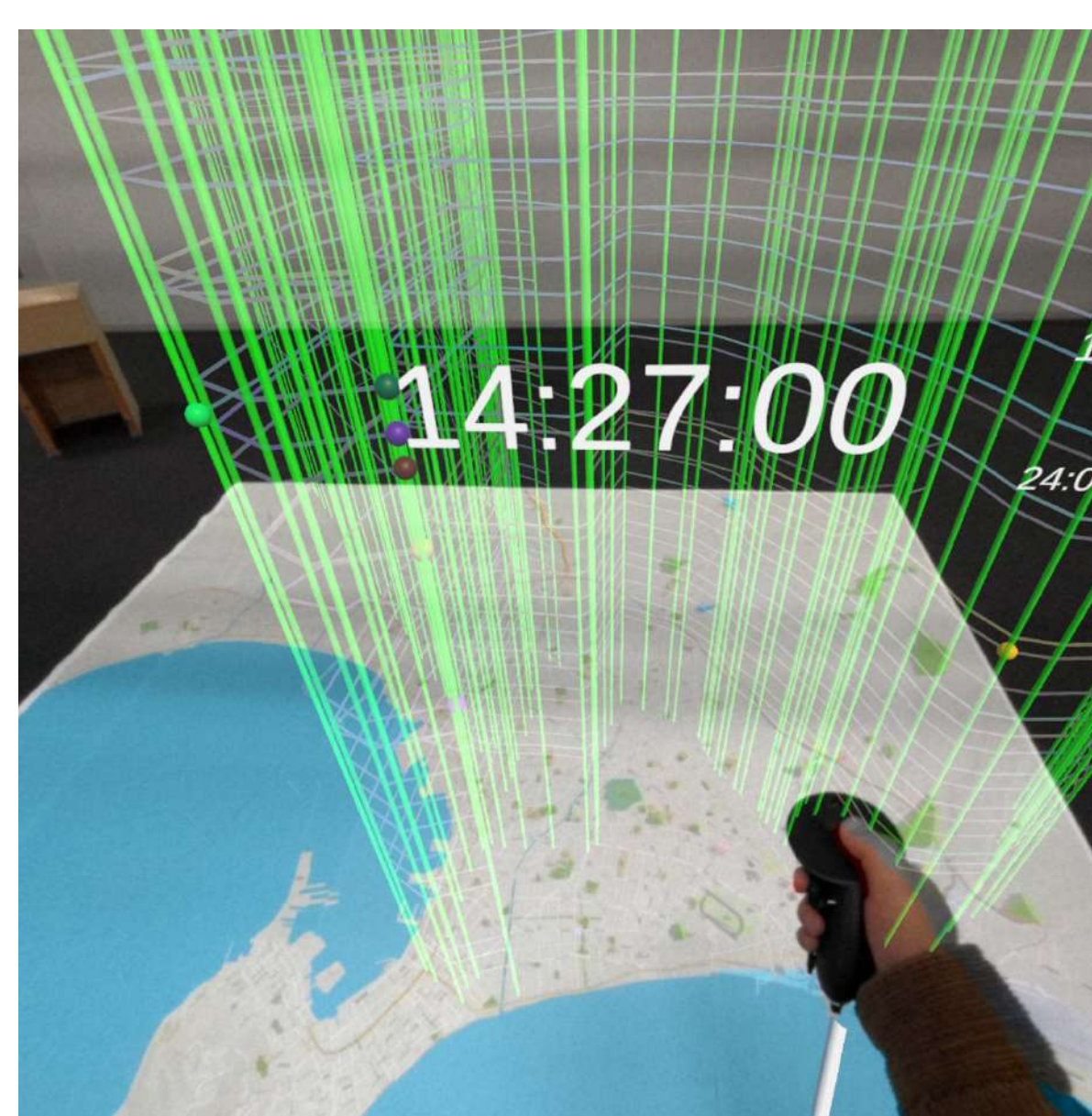
## BLIP

学部4年 赤石征也

BLIPでは、公共交通データとMR技術を組み合わせ、地図上に表示されるバスの経路を自由な視点から観察を可能にし、地域についての新たなユーザ体験の実現を目指す。



30cm四方のデスクサイズバージョン



3m四方の大きな地図バージョン

バス時刻表を地図の上に可視化することができる。時間の流れに沿って、バスが各バス停を往復する様子が地図上の線で表現される。

自分の利用するバス停からどのバスを使えば目的地に行けるか、あるいは、どの時間帯にバスの本数が多くなるか、などが一目で分かるようになる。

地図上に表示されたバス停から2箇所を選択する。その2つのバス停を通るバス路線が検索され、選択した2箇所間のバスの運行経路が地図上に可視化される。

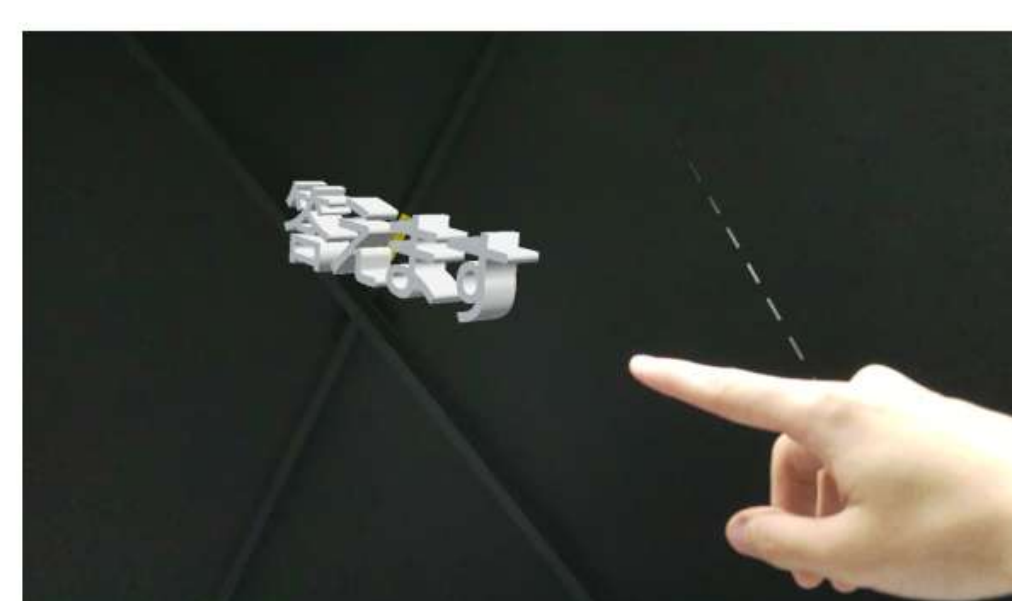
## LyricBathe

学部4年 小島颯英

本研究では、楽曲に含まれる歌詞とMR技術を組み合わせることで歌詞に「浸る」ような体験の実現を目指す。

構築中のLyricBatheは、歌詞を構成する言葉に対してインタラクションを行うことで、歌詞に対して「浸る」体験を引き起こし、楽曲に没入することを目指すMRシステムである。

LyricBatheでは楽曲の歌詞の発声タイミングに合わせて、MR空間上に歌詞が表示されるようになっている



歌詞が指から飛び出てくるモード



歌詞を掴んで動かせるモード

歌詞に対するインタラクションの例

歌詞への手を使ったインタラクションの種類や、歌詞の表示方法はLyricBatheのモードによって異なる。

現在までに7種類のモードのインタラクティブティについてプロトタイプを構築している。インタラクション体験の例としては、音楽に合わせて右手の人差し指の指先から歌詞の言葉が目の前に次々と飛び出してくるような体験、歌詞の文字を掴んだり手のひらで触れたり投げたりする体験などがある。

## DDrPP

学部4年 佐々木響希

本研究では、函館市の統計データを編纂した「函館市史：統計資料編」を用い、データを物理的に表現するDDrPP(ダープ)の構築に取り組んでいる。

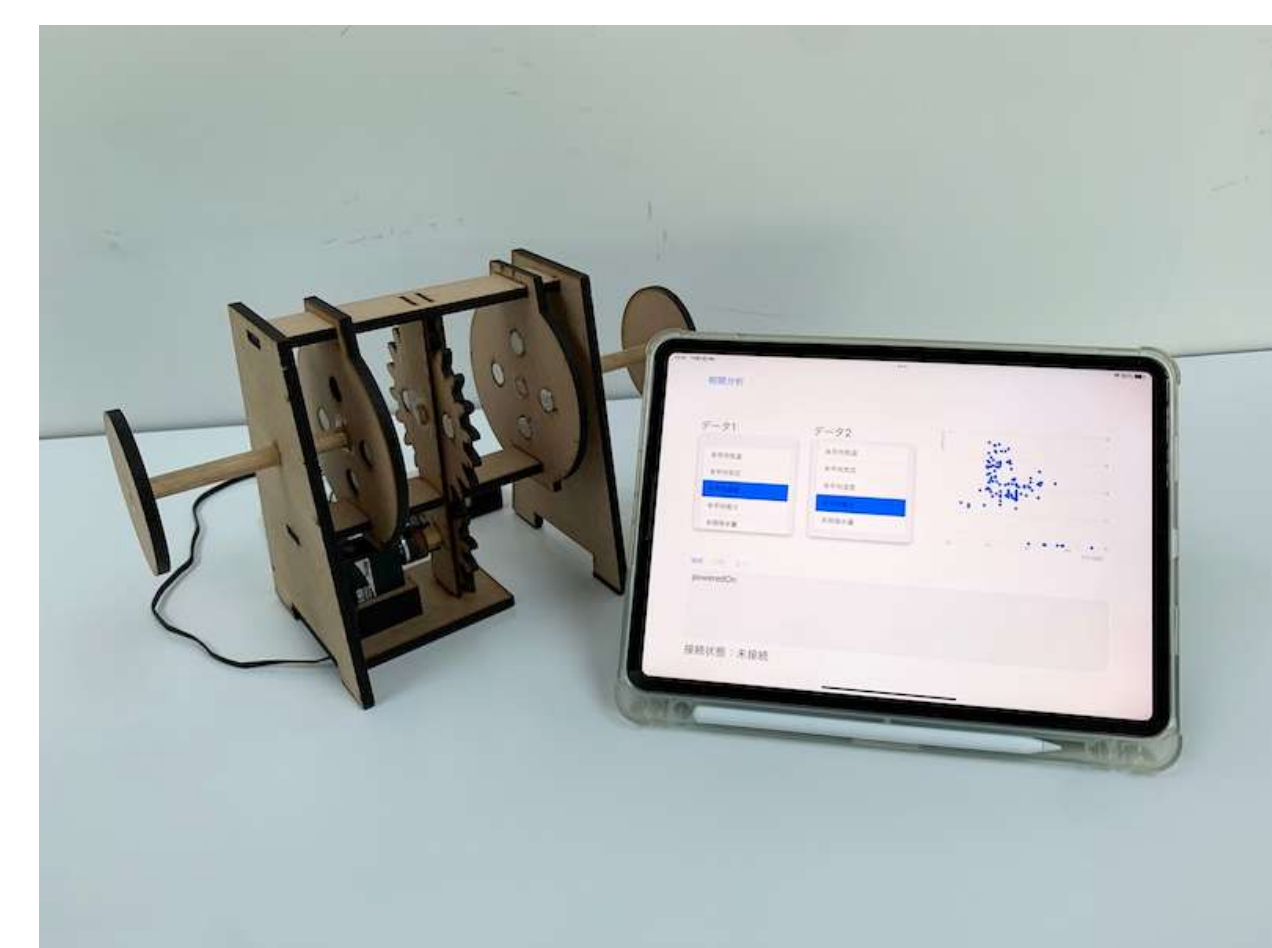
データの物理化とは、物質の性質を利用してデータをエンコードするようなアーティファクトを指す。物理化により人は身体的かつ直感的なデータの理解が可能であるとされる。



函館市史：統計史料編

現在構築中のDDrPPでは、統計データの相関関係を物理的に感じ取れるようなシステムの実現を目指している。DDrPPは、主に物理装置とアプリケーションによって構成される。

物理装置では、磁石を組み込んでおり、その引力・斥力を相関の大小に対応づけて、触覚フィードバックを提供する。アプリケーションでは、リストから統計データを選択し、散布図を描画する。また、物理装置との無線通信を行っている。



DDrPP 物理装置とアプリケーション